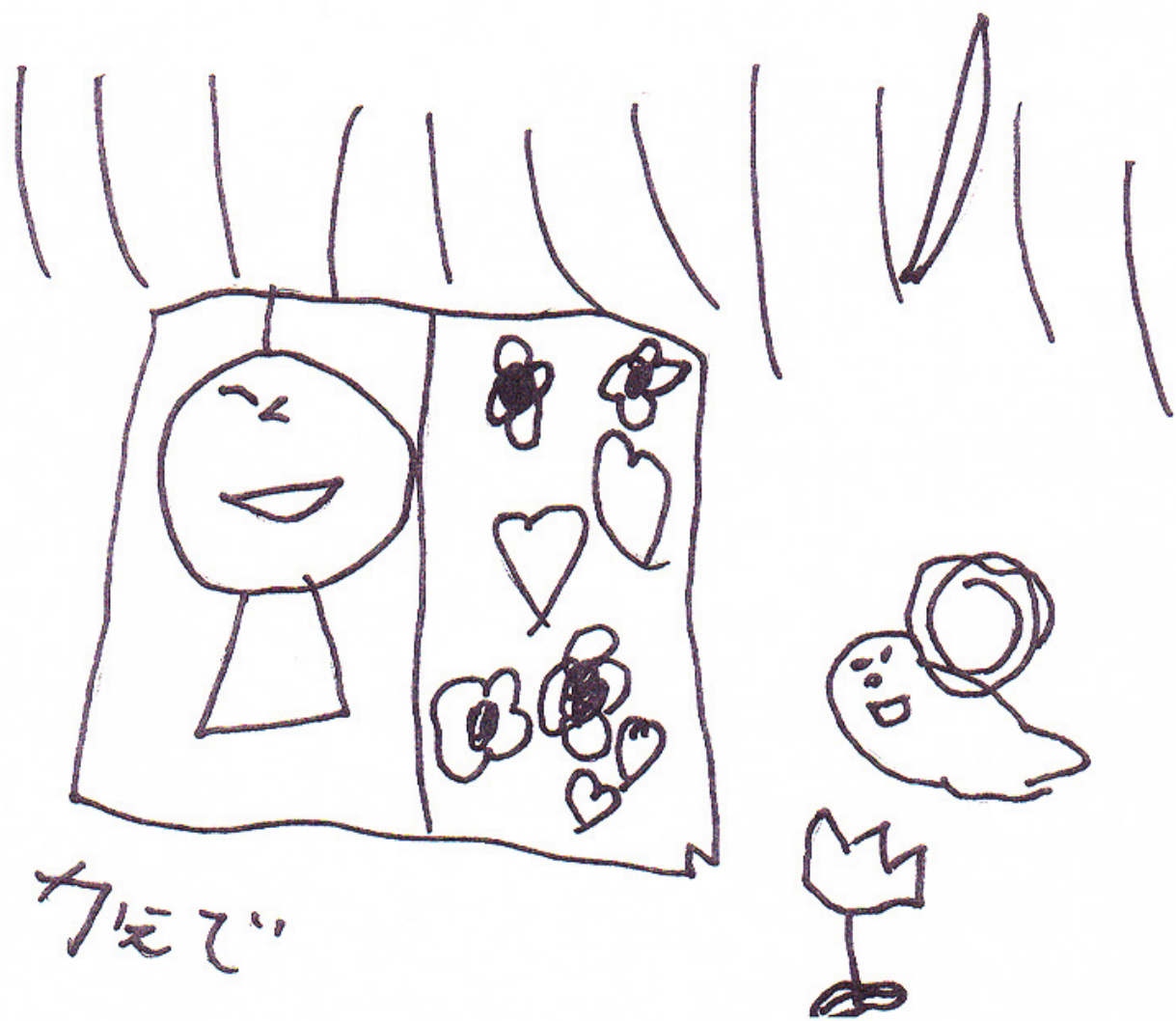


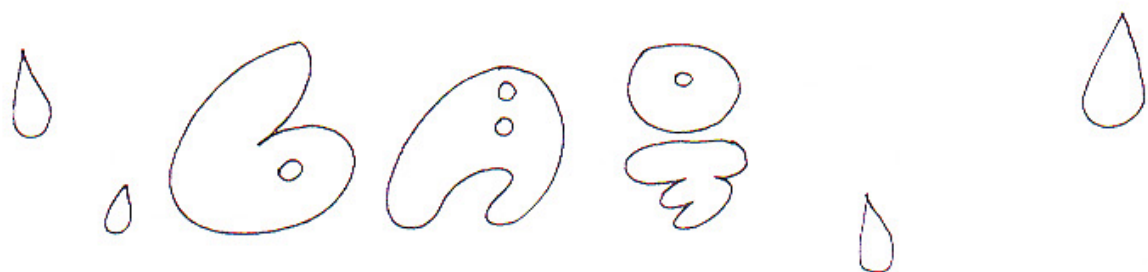
とよ・たち

美肌通信

6月号 Vol. 95



かえり



今月号の表紙は、

素敵な窓から、かわいらしい
てるてる坊主がこんにちは😊!

外では、かたつむりが雨がふっていて、
とってもうれしそうですね!!!

スイミングやピアノなどたくさん習い事をして
いて、泳ぐ事が得意!

お焼き、お茶、レモン、みかんが

好きな笑顔のかわいい

女の子が描いてくださいました!

院長はじめスタッフ一同

じより感謝いたします



松下村塾の弟子達の筆頭といえは「高杉晋作
でしょうか、その中に天野清三郎という勉強嫌いで
見込みがないといわれている男がいた。しかし、松陰
は天野に目をかけ自身の投獄中にも高杉に対し天野
を面倒みる様指示し、天野も高杉の腰巾着の様に
勤皇運動かして歩いた。高杉は天才中の天才と言われて
いたが、一方天野は常に劣等感に苛まれていた。
あらゆる事態に対し的確に対応する高杉の姿に
とても真似出来ないと思っていたからである。

それでは、自分は何をもて世にたっていけば「良
いのか。天野はそう考え始めていた。そんな折、松陰
のある教えを思い出す。「お前たちの中で黒船を
造る者はいないか。あれを造らなければ日本は
植民地にされる」。『そうだ自分(天野)は手先が
器用だ。船造りになって日本を守ろう』信念は
行動を生む。24才でイギリスに密航しグラスゴー
造船所で働く。しかし船造りは数学や物理
学を無くして出来ないうちに気づく。そこで夜学に通
いながら必死に全てを学んだ。天野の当時の語学
力を思えば、その努力は凄まじかったことは想像に
た易い。

更に天野はその後 渡米し造船所で働きながら夜学に通い遂に明治7年31才で帰国した。

その頃の明治新政府高官には、かつての松下村塾の仲間達かいた。

天野は明治政府が設立した日本最初の長崎造船所の初代所長に就いた。

今日、世界一の百万トンバンクがある三菱造船所の礎を築いた男である。一急まめに道を拓いた人である。

松下村塾の言わば落第者 勉強嫌いの男がイギリスやアメリカで血を吐く思いをしてまで勉強することが何故出来たのか。その底力は何か。それは、自分はこれからどう生きていくのか。何のために生きるのかを真剣に考えた末、自分の持ち味を理解し、かむしゃらに突き進んだ(突き進まなかつた・後戻り出来ない)強い志を持ち続けることが出来たからである。

私には最近気に入っている言葉がある。

「どん底に大地あり」。もう一つは、「人生に絶望なし。いかなる人生にも決して絶望はない」。

院長・拝